

取組：生徒の英語力の向上と教員の指導力向上に迫る取組

当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

英語教育実施状況調査において、中学校及び高等学校卒業に求められる英語力が、国の目標値である50%に到達していない。また、高等学校においては、県内で地域差、普通科と専門学科及び総合学科を有する学校間での差が大きい。そのため、生徒の英語力向上及び教員の指導力向上の両面に迫る施策が必要である。

Plan

■取組計画

生徒への支援、教員への支援を明確にした各事業を実施

■体制

高校教育課、義務教育課、総合教育センター、各教育事務所、国際政策課の指導主事等で構成する「みやぎの英語教育推進委員会（通称AIM-C）」において、本県の英語教育に係る各種事業の運営や研修会等の実施方法・内容について検討

Do

（義務教育課）

■英語能力測定テスト事業

県内全中学校2年生を対象に英検IBAを実施、教員を対象としたIBA活用に係る研修会を2回実施

■生徒の自主学習支援事業（Miyagi English Library）

中学生を対象とした自主学習用の英語問題を作成・公表し、生徒の家庭学習や自習を支援及び生徒の学習意欲の喚起

（高校教育課）

■発信型英語教育拠点校事業

拠点校（3校）による生徒の発信力向上・教員の授業改善に係る研究、外部指導者との連携、先進校視察、公開授業の実施

■英語担当教員指導力向上研修会

外部有識者による講演、オールイングリッシュでの参加型ワークショップ等の実施

■学習指導資料「学習評価の事例集」（宮城県版）の作成

新学習指導要領の新科目に対応した学習評価に関する事例集を作成、当課ホームページに公開

■世界に発信する高校生育成事業

研究指定校4校において、ICTを活用した海外ネイティブ講師とのオンライン英会話を実施、生徒の即興性・発信力を高めるための指導法の開発、パフォーマンステストの研究

Check

■英語教育実施状況調査における生徒の英語力の改善

令和3年度の中学校・高等学校卒業時に求められる英語力を有している生徒はそれぞれ46.2%、41.0%となり、令和元年度調査と比較して、7.9ポイント、4.1ポイントの上昇がみられた。しかし、中学校・高等学校ともに国の目標値である50%には到達していない。

■県内中学校2年生を対象に実施した英検IBAによる生徒の潜在能力

英検5級レベル及び英検5級レベルに満たない生徒の割合は、徐々に低くなってきている。一方、英検3級レベル以上の英語力を持つ生徒の割合が徐々に高くなるなど、生徒の英語力の高まりがみられる。

Action

■生徒への支援

生徒の英語力については、中学校・高等学校ともに改善傾向にあるため、外部試験の活用、自主学習支援、研究指定校事業等を一層充実させ、生徒の学習意欲を喚起する。

■教員への支援

生徒が授業の中で英語に触れる機会を最大限に確保するといった観点から、「言語活動の充実」、「パフォーマンステストを活用した評価の充実」等に焦点を当てた研修会を実施し、教員の授業改善を図る。

成果の普及

■自主学習英語問題Miyagi English Library

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/gikyoku/english-1.html>



■発信型英語教育拠点校事業

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koukyou/kyo-eigo.html>



■学習指導資料「学習評価の事例集」（宮城県版）

<https://www.pref.miyagi.jp/site/sub-jigyoku/kyo-gakusyuhyouka.html>



課題

- ・アウトプット活動が不十分なことと、間違いを恐れることによる、即興的な自己表現力が伸び悩んでいる。
- ・教科担当者間の授業スタイルの違いや、中高連携の不足により、系統的で効果的な授業方法が確立していない。

具体的な取組と工夫

■授業(コミュ英と英表で連携)の帯活動で、身近なことや日常的なことに関する表現をペアで練習

- ・既習内容(文法や題材)を用いた内容や、画像の説明、意見交換などをテーマに毎時間実施。トピックに関しては、校内の英語科教員のLINEや、毎週開催される科会などで共有された情報から、季節や時事問題などに関するもののヒントが得られている。

■様々な問に対して、Speaking-first, Writing-secondの流れを定着させる

- ・特に1年生のうち、間違いを気にせず表現することを重視し、学年を追う毎に精度を上げていくことを、校内の英語科教員の共通意識としている。

■授業ワークシートやアクティビティのデータを共有しICTで活用

■模擬試験や英検の表現に関わる部分の強化

- ・パフォーマンステスト(スピーキングテストやエッセイライティング等)をALT主導の授業を軸に実施し、試験問題形式を取り込んだ反復練習を行う。

■公開授業・外部指導者による指導と講演会・研修会を開催し、地元中学校・高等学校の先生方と情報交換

- ・11月に上記の機会を設け、文教大学阿野幸一教授をお招きし、指導助言・講演をしていただいた。教科書の内容理解から発信につながる授業づくり、また、“指導と評価(3観点)の一体化”の方策について学び、中高交えたグループワークで情報共有を行う。

成果

■授業アンケートの結果より

- ・「積極的に英語を話すようにしていますか？」→「とても当てはまる」と「やや当てはまる」 4月(19.6%)⇒2月(65.8%)
- ・ペアワークで英語を使っている実感ができる
- ・間違っても話すことが楽しい
- ・ペアを変えることでたくさん学べる
- ・週課題などで、英文を読む楽しさを得ている

■校内英検合格率データより

- ・1年生が全員受験する準2級の合格率向上

英検準2級合格率	1次試験	2次試験
2019	52.4%	74.1%
2020	58.1%	77.0%
2021	60.0%	78.1%

課題及び改善案

■生徒の自立学習の促進

Google classroomやアプリ使用なども含めた自主的な学びの推進

■生徒同士のやりとりやListeningの強化

発信力を高める(Group talk, discussion, debate等につなげる)指導法の工夫

■中高連携の強化

互いに授業を見学、Can-do-listの共有

課題

- ・小・中・高等学校間での系統的な指導の必要性。
- ・スピーキングにおける即興性を段階的に高める手立ての工夫。

具体的な取組と工夫

■先進校視察や研修の機会

- (1) 協力校（石巻市立蛇田小学校・石巻市立蛇田中学校）との情報交換会を3回実施。
- (2) 協力校間で授業見学をそれぞれ1回実施。
- (3) 過去に連携事業を行っていた会津若松市立城西小学校と福島県立葵高等学校を視察。
- (4) 公開授業及び外部専門機関と連携した英語指導力向上に係る研修会を実施。

講師：朝日大学 教授 亀谷 みゆき 先生

演題：「新学習指導要領と英語教育における小中高連携

～指導と評価の改善を目指して～

授業者：宮城県石巻高等学校 教諭 根岸 潤

■小中高で一貫した指導の共有

- (1) 4技能5領域のCAN-DOリストを小中高でつなげ、指導観を共有。
- (2) それぞれの校種・学年の学習内容に応じたConversation Strategiesを作成。
(Conversation Strategies:英語での即興的なやりとりを円滑に行うための表現リスト)



Ishinomaki Conversation Strategies			
	 opener ～会話を始めるよつ～ elementary school How are you? ~Good!	 doing ～会話を続けるよつ～ junior high school How are you doing? ~Great! ~Not bad.	 showing that you understand ～話をよく聞いてわかるよつ～ high school How's it going? ~Terrific. ~Pretty good.
	 making time to think ～考えたり時間をとるよつ～ elementary school Let's see.	 giving your opinion ～意見を伝えるよつ～ junior high school I agree with you. I disagree with you.	 asking to hear it again ～もう一度話を聞かせるよつ～ high school Could you say that again?
	 asking to hear it again ～もう一度話を聞かせるよつ～ elementary school Let me see. Let me think.	 giving your opinion ～意見を伝えるよつ～ high school Me neither. (Neither/Not either)	 asking to hear it again ～もう一度話を聞かせるよつ～ elementary school Pardon? Sorry?

成果

- お互いのシラバスやCAN-DOリストを共有したり、授業を見学することで、異校種の先生や子どもたちの取り組みをより具体的に把握することができた。
- 小中高で一貫した資料を作成することで、次年度以降より一層した連携を図るための枠組みを構築することができた。
- 先進校視察や外部講師による講演会を実施し、取り組み事例を共有していただいたり、助言していただいたりすることで、連携のあり方や改善点を把握することができた。

課題及び改善案

■課題

- ・単発ではなく継続的な連携の必要性。
- ・観点別評価に対応した評価のあり方等についての連携の必要性。

■改善案

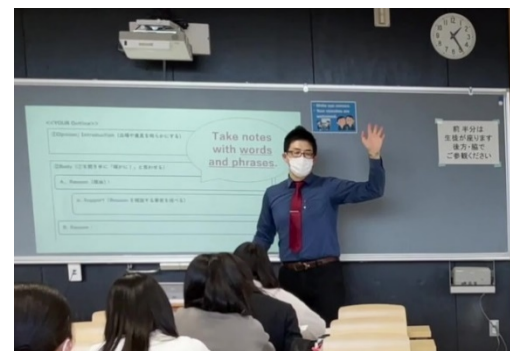
- ・情報共有や授業改善に向けた定期的なミーティングの開催。
- ・小中高で一貫したポートフォリオの作成等で学びや評価の蓄積。

課題

スピーチやプレゼンなどの準備ありきのスピーキング活動が重視されてきており、多少のエラーを気にせずに発話することに抵抗を持つ生徒が多い。正確さを求めるあまり、実用場面で求められる「即興性」が弱点となっている。

具体的な取組と工夫

- 帯活動として、1年間授業の冒頭でSmall Chatを実施した。段階別に①「日常的な話題・身近な話題に関する考えを述べる」→②「二者択一の問いに対して自分の立場を示し、説得的な理由を述べる」→③「与えられた画像・写真について英語で聞き手に説明する」と段階的に実施し、多様な話題について発話の機会を設けた。
- 表現活動において、教科書のトピックを生徒にとってAuthenticなものに落とし込む工夫をし、自己表現への意欲を高めた。また、「話すこと」を「書くこと」の前に配置し、即興的な発話を促すとともに「話すこと」では使えなかった表現を意識させ、「書くこと」への意欲を喚起した。
- 敬愛大学の向後秀明教授にご講演いただき、新学習指導要領の核・理念に関して次年度以降への展望を見出すことができた。また、「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の指定校として発信力の強化に取り組んだ秋田県立角館高校および秋田北鷹高校を訪問する機会を得て、「話すこと」を実現するまでの具体的な手立てについてご教示いただいた。



成果

- 生徒への授業アンケートより、「英語で最も得意なこと何ですか」について「話すこと」と回答した生徒は3%（6月）→10%（11月）であり、また「英語で最も苦手なこと何ですか」に対する回答は「話すこと」28%（6月）→20%（11月）と変化した。
- 帯活動のSmall Chatにおいて、年度当初は1～2文しか発話できない生徒がほとんどであったが、11～12月頃には1分以上にわたって発話を継続できる生徒が見られるようになった。

課題及び改善案

- 授業アンケートの「身につけたい英語の力は何ですか」について、「話すこと」に次いで多かったのは「聞くこと」であった。相手の話を理解する力をつけるため、リスニング指導にも力を入れる必要がある。
- 「話すこと」の指導において、より説得的になるように「書くこと」と同様に段階的に有用な表現を蓄積し、表現の幅を広げたい。